

※一部非公開

令和三年度入学試験問題 (前期日程)

## 小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、解答時間は、一〇〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆(シャープペンシルを含む)書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

非公開

非公開

(鶴岡真弓編、『芸術人類学講義』、筑摩書房、二〇二〇年、四八〜五五ページ、抜粋)

問一 「人類」と「人間」のちがいについて、作者の論旨に沿って、六〇〇字以内で述べなさい。

問二 傍線部「端的に言えば、それは『祈り』ということになるでしょう。」という文の「祈り」について、本文全体をふまえて、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

令和三年度入学試験問題（前期日程）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、琉球・沖縄、日本、中国・台湾、朝鮮半島の言語、文学、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を持ち、地域の違いと類似性に目を向けつつ、主体的・積極的に研究できる人を求めている。したがって、本学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心と、根拠ある主張を論理的に展開できる力が要求される。問題文は、「芸術人類学」という新たな分野についての定義について述べた文章である。本出題の意図は、「芸術人類学」を定義するキーワードの一つである「人類」及び「人間」という概念について述べた文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。その上で、本文の内容をふまえて芸術人類学における重要な概念である「祈り」について、宗教や信仰のみに囚われない普遍的なものであるという筆者の論旨を踏まえた上で、その様相について論述させることにより、受験生の理解力および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。